

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Pana・くおーり			
○保護者評価実施期間	2025年11月1日		～	2025年11月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25人	(回答者数)	25人
○従業者評価実施期間	2025年11月1日		～	2025年11月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数)	9人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士や公認心理師等を配置しており、これらの役職員により、対象利用児の専門的支援を可能な限り実施している。	単発の支援に終わらせることなく継続して実施し、利用児の成長につなげられるよう、実施体制(役職員配置)を整えている。	専門的支援ができる役職員について、現在の3名からさらに増員するため、保育士の有資格者に経験を積ませている。
2	当事業所における利用児の心身の状況を丁寧に把握し、HUGを利用して保護者様に即日情報提供している。	利用児の療育に関わった役職員が、当日の活動内容や利用児の様子について、時にメモも取りながら適切に把握し、それらを適確に記録するとともに、即日、保護者様にお知らせしている。	役職員間で記録内容や情報提供内容にレベル差が生じないよう、他の役職員の記録をお互いに参照しながら、中身の充実に努めている。
3	夏休などの長期休業日には、延長支援の希望が多いため、それに応えられる療育体制を整えている。	午前中から夕刻までの利用児が極めて多くなるため、平時よりも多くの職員を配置している。また、多彩な活動内容となるよう、プールの開設や事業所外での活動(施設見学、買物体験、イベントへの参加など)も頻繁に行っている。	利用児に喜ばれ、療育効果の上がる事業所外活動となるよう、受け入れていただける施設や対象イベント等についての情報収集をさらに進めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当事業所で作成している安全マニュアルや非常時対応マニュアル等に従い、定期的な研修や訓練の実施が必要であるが、利用児や保護者様も参加するような避難訓練等が未実施である。	マニュアルに従い、計画上、非常時対応等の体制は整えており、定期的な研修も行っているが、職員の入所退所もあって、現在の全役職員がそれらの内容を完全に理解し、マニュアルどおり対応できるまで習熟しているかどうかは疑問が残る。	定期的な職員研修を続けるとともに、利用児等を加えた訓練も実施し、問題点を洗い出し改善につなげるなどの実践活動を行っていく。
2	事業所による送迎について、稀に、迎え忘れや時間の勘違いなどのミスが出ている。	利用予定の変更や職員体制の変更などがあつた際、それらが反映されずにうっかりミスにつながっている。	ダブルチェックを行うなどして、ミス防止に努める。乗車定員7名の送迎車を新たに導入し、配車に余裕が出るよう改善した。(令和7年12月1日から)
3	家族支援のためのプログラム実施や保護者会の開催などは、十分にできていない。	家族支援のために必要な面談など、時に実施してはいるが、その必要性についての意識づけが事業所内で十分でなく、必要十分な実績とはなっていないと料する。	それぞれのご家族の状況を可能な限りコンセンサスに把握し、困りごとが生じたときに早期に対応できるよう、改善していく。